

令和2年度事業報告(美術館)

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

公益目的事業2(展覧会事業)

新型コロナウイルス感染拡大による政府の緊急事態宣言発令により、リニューアル・オープン記念展Ⅰの開催を5月13日から7月22日に変更。それに伴いⅡ、Ⅲ展の開催時期をずらした。

1. 「リニューアル・オープン記念展Ⅰ」の開催(48日間 朝日新聞社共催)

- ア. 名称 「ART in LIFE, LIFE and BEAUTY この国の美は生活の中にある」
- イ. 会期 令和2年7月22日(水)～令和2年9月13日(日)
- ウ. 概要 サントリー美術館は1961年の開館以来「生活の中の美(Art in Life)」をテーマに展示・収集活動を行ってきた。絵や彫刻だけではなく、日常使う道具や調度に美を認め、生活の中で味わい、愉しむ。これがわが国の美意識の特徴であり、その美意識のもと多くの名品が見出され育まれてきた。当館ではこれらの美術作品を企画展や収蔵品展を通じて紹介してきたが、本展では、改めてこのテーマに立ち返り、生活を彩ってきた華やかな優品を厳選して紹介するのみならず、ジャンルや時代の枠組みに縛られず、古美術から現代アートまでの幅広い作品とクロスさせることで、コレクションの新たな側面に光を当てる新たな試みにも挑戦。リニューアル・オープン後の最初の展覧会として、美術愛好家はもとより広く美術ファンの注目を集めるとともに、美術専門メディアでも多くの露出を獲得する等、改めて当館の存在感と所蔵品の魅力・価値を存分にアピールする展覧会となった。

- エ. 展示
- ・国宝 浮線綾螺鈿蒔絵手箱 一合 鎌倉時代 13世紀
 - ・重要文化財 泰西王侯騎馬図屏風 四曲一双 桃山時代～江戸時代初期
17世紀初期
 - ・遙カノ景 〈空へ〉 深見陶冶 一基 平成8年(1996)

2. 「リニューアル・オープン記念展Ⅱ」の開催(55日間 朝日新聞社共催)

- ア. 名称 「日本美術の裏の裏」
- イ. 会期 令和2年9月30日(水)～令和2年11月29日(日)
- ウ. 概要 私たちの祖先が、生活の中でどのように美を味わってきたのかと思いをめぐらすと、一見近づきがたい日本美術にぐっと親しみがわいてくる。そんな古の人々の愉しみ方を追体験し、その美意識を再発見することは、現代を生きる私たちに新しい刺激を与えてくれる。本展ではサントリー美術館の基本理念「生活の中の美」の“愉しみ方”に焦点をあて、当館の個性ゆたかな収蔵品の中から、日本ならで

はの美意識に根ざした作品を通じ、何をどう鑑賞したら良いのか悩める日本美術初心者の方々に向け、教科書では教えてくれない日本美術の面白さの一端を紹介。タイトルや展示方法、作品解説等、当館ではこれまでにない斬新かつお客様目線に沿った内容に挑戦した展覧会として美術ファンだけでなく、若者層をはじめ美術に興味を薄かった人々の間で大きな話題を呼ぶとともに、多くの方にご来場いただく等、これからの当館の企画に新たな可能性をもたらした展覧会として大きな評価を得た。

- | | | | | | |
|-------|---------|------|----|------|-------------|
| エ. 展示 | ・青楓瀑布図 | 円山応挙 | 一幅 | 江戸時代 | 天明7年(1787) |
| | ・かるかや | | 二帖 | 室町時代 | 16世紀 |
| | ・青緑山水画帖 | 池大雅 | 一帖 | 江戸時代 | 宝暦13年(1763) |

3. 「リニューアル・オープン記念展Ⅲ」の開催 (62日間 朝日新聞社共催)

- ア. 名称 「美を結ぶ。美をひらく美の交流が生んだ6つの物語」
- イ. 会期 令和2年12月16日(水)～令和3年2月28日(日)
- ウ. 概要 「美を結ぶ。美をひらく。」これはサントリー美術館が六本木・東京ミッドタウンに移転開館した2007年以来掲げてきたミュージアムメッセージである。たとえば、古きものと新しきものを結ぶ。中世や近世、近代といった時代の枠組みに縛られずに美と美を結ぶ。たとえば、東と西を結ぶ。国や民族といった境界にとらわれずに文化を結ぶ。自由に大胆に結ぶことから、新しい発見がひらかれる。知的感動がひらかれる。結ぶことで人と美に新しい関係をひらいていきたいという思いを込めたものであり、本展ではこのメッセージを改めて見つめなおし、結ばれ・ひらかれた美の物語とともに収蔵品の中から陶磁器、琉球美術、版画、ガラスの名品などを中心に約200件を紹介。期間中、緊急事態宣言が発令されるなどの不運に見舞われたが、改修後のLEDライティングの活用やスタイリッシュな展示デザインを最大限生かし、所蔵品の魅力を来場者に余すところなく伝えた展覧会として当館の価値向上に大きく寄与した。

- | | | | | |
|-------|-----------------|----------------|-----------|------------|
| エ. 展示 | ・花器「蜉蝣」 | エミール・ガレ (フランス) | 一点 | 1889-1900年 |
| | ・色絵花鳥文六角壺 | 一合 有田 | 江戸時代 | 17世紀 |
| | ・紅型裂 白地震松桜楓に小禽文 | 一枚 | 第二尚氏～明治時代 | 19世紀 |

収益事業

1. 物販事業

所蔵品をモチーフとした商品開発、展覧会内容・季節の催事を取り入れた店頭ディスプレイにより、お客様に繰り返し足を運んでいただける魅力的なミュージアムショップを目指した。

2. 飲食事業

「加賀麩 不室屋」の老舗ならではの信頼感とブランド力を活かしつつ、現代の感性を取り入れたメニューを提供し、新規顧客の拡大とリピーターの増加を目指した。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出を通じて、収益を得るだけでなく、日本の伝統文化の啓蒙という当館ならではの価値訴求を心掛けた。

以 上